

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ホームケアー桜井
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	奈良県桜井市粟殿新町1007-11
記入者名 (管理者)	眞野優子
記入日	平成 21 年 4 月 27 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所内に理念を掲げ(個の尊厳 ひとり、ひとり)を職員全員が常に理解し、日々取り組んでいる。(地域と密接にかかわり...) (利用者の住み慣れた地域での生活の継続...)の理念をつくりあげている。		今後も事業所独自の理念を念頭に地域との関わりを大切にしていく。
<input type="checkbox"/>	理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新人研修、及び日々のカンファレンス、等職員全体で理念を共有し、基本理念の徹底、実践にむけて取り組んでいる。		これからも職員全員で理念を共有し、実践にむけて日々のカンファレンスでの確認を継続していく。
<input type="checkbox"/>	家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念を掲示するとともに、運営推進会議や介護計画書の説明のなかで家族や地域の方に理解いただけるよう取り組んでいる。		今後も運営推進会議、ホームだより、介護計画書の説明時などにより、家族や地域の方の理解を得られるよう取組みを継続していく。
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	毎日の散歩や近くのスーパーへの買い物時など近隣の方やお店の方と積極的に挨拶や会話をし顔なじみになるように心がけている。		今後も近隣の方と挨拶やお話の機会を増やしていけるよう、介護計画書の外出支援の中で計画的に取り組んでいる。
<input type="checkbox"/>	地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元のボランティアの方に来ていただき、歌や踊りなどのレクレーションをしていただいたり、今年からは自治会に入り地域の行事にもこれまでよりも参加するように努めている。		地域の行事だけでなく、小学校の運動会の観覧など地元の方との交流の機会を具体的に計画し実践していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員全員が地域の方に役立つ事業所でありたいとの思いで地域の方と接していますので、貢献できることが見つかると思います。		・施設は自由に出入りして頂けるように常に開放しており、地域住民との交流を増やしていくなかで、当事業所に困っておられるかたが、気軽に相談に来ていただけるような所になっていけるよう、取り組んでいく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価、自己評価の内容を職員全体でカンファレンス等により改善する努力をしている。		改善内容について、継続してカンファレンスの場で話し合っていく。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民政委員、地域包括支援センター職員、自治会の方に参加頂き、利用者、事業所の現状、現在改善に向けて取り組んでいる内容を報告し、参加者からの意見も取り込んで、日々のカンファレンス等で職員全員が認識し、サービス向上に生かしていくよう努めている。		運営推進会議の場で事業所の状況等を報告し、参加者の皆様に地域の状況等情報を頂き、頂いたご意見を参考に、サービスの向上に生かしていく。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域の高齢者サービスについての相談、苦情の相談、入居依頼のお客様の相談、事業所の運営の相談を含め、担当者と直接頻繁に行き来している。また、地域包括支援センター主催のケアマネ会議等にも出席し、連携を図っている。		今後も市担当者や、地域包括支援センター職員より、情報や知識を頂き、サービスの質の向上、地域活動への参加機会を増やすなど取り組んでいきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居者の受け入れ相談の時、家族や関係者とはそれらについて話しあっている。又成年後見等必要な方の受け入れの事例を運営推進会議等で支援内容を報告している。		研修等により職員一人一人が制度を理解し、必要な方にそれらを活用出来るよう支援していきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待防止関連法」「気付かない虐待」について、マニュアルや事例報告等により定期的な研修を行っており、虐待について厳しく受け止めながら、毎日のサービス提供にあたっている。		虐待防止の研修を今後も継続していきます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約、解約の際は、担当責任者が十分な説明を行い、理解、納得して頂いている。</p>		<p>今後もその方針を継続していく。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者と管理者、職員は気軽に話し合える雰囲気を作っており、意見、不満、苦情等は運営に反映させている。他のユニットの職員に話されることで互いの職員へ利用者の声が届いており、反映されている</p>		<p>今後も利用者の意見、不満、苦情を大切に運営に反映させていく。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月に1度のホームだよりの中で報告し、日常生活や行事等の写真を送っている。介護計画書の説明時に細かな報告をしている。又、必要に応じて健康状態など電話で報告をしたり、主治医を交えて相談を行っている。</p>		<p>ホーム便り、計画書の内容を見直し充実した報告を行っていく。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族等の意見、不満、苦情には迅速に対応しており、運営推進会議の場等で報告し、速やかに運営に反映するように努めている。運営推進会議の場では、苦情、不満が率直に出せるよう進行に努めている。</p>		<p>家族等の意見、不満、苦情等を傾聴し、真摯に受けとめ、迅速に対応し、運営に反映していくことを継続する。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>情報は全員へ伝えており、都度意見と共に反映させている。</p>		<p>職員の意見や提案が生かされるよう努める。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>柔軟な対応が可能となるよう勤務体制の整備が行われている。直接サービス者以外にゆとりをもって働ける職員配置している。</p>		<p>今後も、柔軟な対応をおこなっていく。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>退職者以外の異動はほとんど行っていない。利用者への影響が最小限となるよう、新しい職員への研修等と、他の職員との連携体制を充実させることでダメージを防いでいる。</p>		<p>利用者への影響を最小限となるよう努めていく。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員を育成する為研修を受ける機会を確保している。		計画的な内部研修、外部研修の参加の機会を確保し、職員育成を行っていく。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の地域密着型サービス事業者の会議に2か月に1回参加し、情報交換を行っており、日々の業務に生かしている。		今後も継続して地域密着型サービス事業者の会議等に出席し、地域事業者との交流を活発におこない、サービスの質を向上させていくよう取り組んでいきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は管理者や職員と密に、報告、連絡、相談の出来る体制づくりをしており、職員のストレス軽減にむけた取組みをおこなっている、		今後も、報告、連絡、相談体制の徹底により、職員のストレス軽減のための環境作りの工夫に取り組んでいく。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者や職員の努力、実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		今後も管理者や職員状況を把握し、管理者や職員が向上心をもって働けるよう努めていく。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	直接、本人と話す機会をゆっくりもっている。家族や本人に身近な方にも直接話を聞き、より多くの情報を得ている。		認知症軽度な場合は、よく聴くことができるが重度の場合は全容の把握が大変難しい。他者からの情報に頼っている。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族が安心、納得されるまで何回でも何時間でも聴く機会を作っている。直接お会いしますが、電話の場合もあります。		不安なことが多くあり、時間をかけて丁寧に説明していくことを今後も努力していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人ご家族の意向をしっかりと聞き取り、本人と家族に一番必要としている支援を見極める対応に努めている。		本人と家族に一番必要としている支援を見極める対応に努める。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者に合わせて見学して頂いたり、他の入居者とおしゃべりの時間をもうけたりしている。又入居前になじんでおられた支援相談員の協力、家族の支援など活用している。		今後も家族や入居前の支援相談員の協力を得ながら、本人安心して利用できるように努める。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人と生活を一緒に過ごさせていただきながら、ご本人の想いを共感し、多くを学ばせて頂きながら支え合う関係を築くよう努めている。		共に過ごし支え合える関係を継続出来る様信頼関係の構築に努める。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族のご苦労や、想いを理解し信頼関係を築きながら、ご家族と共に本人を支えている関係を築いている。		今後も家族との相談連絡を密におこない、家族と共に支えていく関係を継続していく。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族とご本人のこれまでの状況を把握、理解に努め、今後もよりよい関係が築いていけるように支援している。		今後も家族とご本人のよりよい関係が築いていけるよう支援していく。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や人との交流が継続出来る様介護計画の中におりこんで実施している。		本人が大切にしてきたこと等を理解し継続出来る様支援していく。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が良好な関係になれるよう利用者の状態、性格等考えながら支援している。又問題が起こった時は、直ちにカンファレンスを行い改善を図っている。		利用者の状況変化を常に把握し、日々のカンファレンスにより問題の改善を行い、利用者同士がより良い関係で過ごしていただけるよう努める

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去時の退去後の相談を受け対応させていただいている。荷物の後始末、挨拶など一緒にさせていただいている。		サービス終了後も家族等のご相談等させていただける体制を継続する。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望を介護計画書におり込みカンファレンスで話し合い、職員全員が把握に努め統一した援助を行っている。		今後も日々のカンファレンスを繰り返し、思いや意向の把握に努める
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や生活環境等の把握に努め、毎日の話題等支援内容に取り入れる。		生活歴や生活環境を日々のカンファレンス内容にとり入れ援助方法の計画や変更を繰り返す。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの状況変化をカンファレンスで話し合い把握し、介護計画にもとずいて、統一した援助を実行している。		今後も状況の変化に早期対応していけるようカンファレンスを繰り返し行っていきます。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、必要な関係者と日々話し合い、利用者本位の介護計画の作成、変更、実施を繰り返し行っている。		今後もカンファレンスを継続し、介護計画の見直し、変更、実施をおこなっていき、より良い暮らしを行って頂けるように努める。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書にそって日々カンファレンスをおこなっており、利用者の状況に変化が生じた時は、その都度介護計画の見直し、変更をおこない、新たな計画に基づいた援助の統一をおこなっている。		今後もカンファレンスを継続し、介護計画の見直し、変更、実施をおこなっていき、より良い暮らしを行って頂けるように努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日利用者の介護記録を記入し、変化については申し送りや、カンファレンスを行い、情報の共有、計画の見直し等行っている。		観察の力を深め介護記録の内容から、状態変化等気づきやケア工夫を行っていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診の対応はすべて受け入れている。その他個別の対応も要望に応じている。入居、退去の荷物の搬入、搬出支援、送迎サービス、介護用品の購入の相談支援を行っている。		今後もあらゆるニーズに対応し、相談、要望に全面的に支援していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域ボランティアさんの定期訪問によるレクリエーション、消防署の協力等支援を得ている。		地域ボランティアの方の訪問の継続、又ひとりひとりの意向等にそった地域資源との協働を計画的におこなっていききたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	相談、話し合いを重ね、本人、ご家族の意向、必要性に応じられる支援している。		必要に応じて他のサービス利用するための支援をしている。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人や家族の意向に応じて対応しており、必要に応じて地域包括支援センターと協働していく体制にある。		必要に応じて地域包括支援センターと協働し支援をしていく。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの提携医療機関はありますが、馴染みや希望の医療機関がある場合は情報提供しながら連携するよう努めています。協力医療機関との連携が整っており、24時間相談できる体制になっている。		本人、家族の希望を大切にしながら、他の医療機関と協力医療機関と密に連携をとり、適切な医療を受けられるよう支援する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	本人の症状により、家族、協力医療機関医師、事業所の責任者と相談しながら、専門医等の診断治療を受けられるよう支援している。		利用者の状況把握に努め、医師との連携を密に行っていくことを継続する。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関看護師と24時間相談できる体制になっており、日常の健康管理や医療相談等行っている。		利用者の状況把握に努め、看護師、医師との連携を密に行っていくことを継続する。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した場合は病院関係者との情報交換や相談に勤めている。		今後も入院病院の医師、看護師と連携し、早期退院出来るよう、情報交換相談していきたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向を確認し、状態の変化時には、かかりつけ医から説明してもらい、本人、家族の意向の把握を行っている。情報を基に、対応方針を定め職員間で情報を共有し、支援している。かかりつけ医とともに職員全員が「できること」「できないこと」を見極め検討し支援している。		既に24時間の医療機関との連携体制はとっている。看取り介護については十分な話し合いを重ねて支援している。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	提携医療機関医師、訪問看護ステーション、家族、事業所責任者間において細かな相談を重ね、これまでに数名の看取り介護をすでに行っており、重度や終末期の介護の行える体制を整えている。		今後も医療機関、訪問看護家族との連携を図り、看取り介護の充実した体制づくりを行っていく。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えの事態が発生した際は関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐように努めている。		家族や本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行ない、住み替えによるダメージを防ぐじよとに努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人ひとりを大切にその人に適した言葉かけや対応に務めている。人生の先人として尊び、日々考えられる立場であることを命じて介護にあたらせていただいている。</p>	<p>一人ひとりの誇りやプライバシーを大切に、その人に適した言葉かけや対応をし、記録等についてもプライバシーの確保に努めている。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>一人ひとりの力に合わせた説明を行い、本人の思いや希望を表せるよう支援している。本人の希望等は介護計画書にとり込み、職員全員が把握するよう努めている。</p>	<p>今後も継続していく。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりのペースにあった生活ができるよう状態の把握をし支援する。支援内容は介護計画書にとり込み統一した支援を行っている。買い物や散歩を出来るだけ希望にそって対応しています。朝食等その方のペースに合わせて時間をずらして対応するなど行っています。</p>	<p>その人のペースにあった支援計画を日々のカンファレンスで話し合い柔軟に対応できるように努める。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>そのひとらしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。訪問美容サービスを受けているが望む店に行かれる場合は支援している。</p>	<p>今後も本人家族と相談しながら行っていく。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>ひとりひとりの好みや力に応じて好きな物を買って食べられるよう支援内容を計画し、準備や後片付け、食事を楽しんでいただける支援を行っている。月に1～2回は皆でお鍋をしたり、お好み焼きをしたり職員と入居者様が一緒に楽しめるようにしている。</p>	<p>今後も継続して食事を楽しんでいただけるための支援内容の検討を繰り返し実行していく。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お酒、タバコ、飲み物やおやつ等一人ひとりの好みに合わせて楽しんでいただけるよう支援している。(現在はお酒タバコを吸われる方はいませんが、おられる場合にはその方の状況に合わせて対応出来る)</p>	<p>継続して支援していく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの力や排泄パターンを熟知することで排泄の失敗やおむつの使用を減らせるよう支援する。介護記録に基づきカンファレンスを行い、支援内容の統一を行う。		今後もカンファレンスを継続し、介護計画の見直し、変更、実施をおこなっていくことで、排泄支援を充実させていく。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの身体状況等に合わせた入浴支援内容を計画し、入浴を楽しんでいただいている。一番風呂に入りたい等ご本人の希望に合わせた対応を心がけている。		身体状況等の変化に伴い、都度カンファレンスを行い、入浴を楽しんでいただける支援を継続する。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安心して気持ちよく休憩したり、眠れるように環境を整え支援している。		身体状況の変化等に応じ、適切な支援が行われるように、継続したカンファレンスにより状況把握に努める。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個別に目的支援を計画し、実行することで日々の生活に張り合いや喜びをもって頂けるよう支援する。計画の内容は本人の希望や能力に応じカンファレンスにより話し合って決定、変更をくりかえしている。		裁縫の得意な方に雑巾をぬって頂いたり、料理の得意な方には一緒に調理をさせて頂いたり、その方の特技や好きなことを生かした支援を今後も行っていく。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの力に合わせ、金銭支援を行い、金銭へのかかわりをもっといただいている。近くのスーパーへの買い物に行った時の支払い等具体的内容は介護計画書に記載し、統一した援助を行っている。		身体状況等の変化により、支援内容の変更を行っている。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くのスーパーへ日用品やお菓子の買い物に行ったり、庭先で外気浴をして頂いたり、本人の希望や力により介護計画書の中に外出支援内容を具体化し、援助を行っている。		身体状況等の変化により、支援内容の変更を行っている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	事業所の外出支援の催し企画や、お墓参り、神社のお参り等個別の希望に応じた外出支援を行っている。		積極的に外出支援を計画し実行している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一人ひとりの希望や力に応じて電話や手紙のやり取りの支援をしている。		身体状況に応じた支援内容を具体化し活発にやり取りが行えるよう支援する。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に来て頂きが和やかに過ごして頂けるよう、職員教育、環境の整備等に取り組んでおり、レクレーション等に参加していただけるような雰囲気作りに努めている。行事などへの参加案内も送付している。		ご家族等訪問者のご要望、ご意見を参考に工夫していく。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の弊害についての研修を継続的におこない、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。職員全員が懸命に考え、拘束をしないサービスの検討を日々行っている。		今後も研修を繰り返し職員が身体拘束について正しく理解するようにしていく。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は鍵をかけることはなく、天気の良い日は開け放ち、開放的になるよう心がけています。		今後も鍵をかけないケアに取り組んでいく。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は昼夜を通し、利用者の所在と利用者の健康状態を確認しながら安全に配慮している。		今後もプライバシーに配慮しながら安全確認に取り組んでいる。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤、刃物等の注意の必要な物品は、保管場所、管理方法を定め、又利用方法も取り決め危険を防ぐ取り組みをしている。		今後も注意の必要な物品の保管、管理、使用方法は一人ひとりの状態に応じて危険を防ぐ取り組みをしていく。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のマニュアルにそって研修を行ない、職員はひとりひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		常に一人ひとりの状態の変化を把握し、その状態に応じた事故防止に取り組んでいく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルがあり、それにそって対応できるようにしている。		緊急時のマニュアルにそって緊急時対応についての研修を繰り返しおこなえるようにしていく。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災等のマニュアルにそった防災訓練、消防署の方にも協力頂き定期的におこなっている。被災時の応援に運営推進会議などで地域の人へ呼びかけている。また、事業所だけでなく法人全体としての応援体制を整えている。		火災の状況を想定した防災訓練を繰り返し行っていく。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族の望みを優先した対応策を行っている状況を繰り返し伝え、話し合いを重ね慎重に対応している。又身体状況については担当医師の意見も伝え相談を繰り返している。		今後も医師の意見も含め、細かくご家族と相談しながら対応に努める。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	1日2回バイタル測定を実施し、様子観察、記録をつけて体調の変化の早期発見に努めている。変化のある場合には、担当医の指示に従い対応している。		日々状態の観察には注視し、体調の変化の早期発見に努め健康に生活できる様支援する。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、薬局から頂いた薬の情報を熟読し、服薬の支援と症状の変化の観察に努めている。		今後も医師の指示のもと適切な服薬の支援を行っていく。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘を予防する為、1日1200～1500ccの水分補給に努め、ラジオ体操等による適度な運動、医師指示等による食事内容の工夫等により予防している。一人一人個別に援助内容を計画し援助している。		今後も継続して取り組んでいく。状態の変化等あれば、医師との相談を行い、指示どおり援助を変更していく。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後必ず一人ひとりの口腔状態に応じた口腔ケアを行っている。		援助内容の見直し、変更を状態の変化によりカンファレンスを行い変更実施していき、口腔内の清潔を保っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算し、栄養バランスに配慮した食材を利用し、摂取量や水分量を記録し、一人ひとりの状態や習慣に応じた支援をしている。状態の変化がある場合には医師に相談し、指示を仰いでおり、栄養補助ドリンクや、ゼリー状にするなどの援助を行っている。		今後も状態の変化によりカンファレンスを行い、医師の指示を受け援助していく。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	介護の手引き等感染マニュアルにより感染症の予防や対応の仕方を実行している。		マニュアルにそった感染予防の研修を行ない、職員の理解に努めることを繰り返しおこなって行く。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具、食器等は食器乾燥機を利用し、衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		今後も日々衛生管理に努め、食中毒の予防に努める。予防に対する研修の定期的実施を行う。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花壇に季節毎の花を植えたり、室内に花や季節の行事に合わせた飾りをし、家族や、近隣の方が出入りしやすい環境を作っている。		親しみのある環境作りに今後も取り組んでいく。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は家庭的な雰囲気になるよう配慮し、季節の行事毎に飾り付けの工夫をしており、居心地よくすごして頂けるよう努めている。台所は調理のしている所が見えるようになっており、常に職員と入居者様の会話が飛び交う環境になっていて家庭的である。		今後も入居者様の意見を取り入れながら工夫していく。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブルやソファ-など自由に使用し過ごせるように配慮している。		テーブルやソファ-の配置に工夫を凝らしながら一人ひとりの居場所づくりに配慮している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛着のある家具を本人やご家族の好みに配置され、ご仏壇や写真を飾るなど、その人らしい生活空間づくりを行っている。		今後もご家族本人と相談しながら、居室の工夫を行っていく。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	2時間毎の換気に努めている。室温は温度計により適温に保つようになっている。		今後も継続して室内換気を行っていく。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、廊下、浴室、トイレ等に手すりを設置し自立した生活がおくれるようにしている。身体状況により居室内に手すりが必要な場合はご家族と相談し、対応を行う。		さらに安全で自立した生活ができるように話し合い、安全な環境作りに取り組んでいく。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各部屋に入居者の名前と好みののれんをつらし、場所の間違いを防ぐ努力をしている。		今後も個別援助内容の検討により、自立していただける工夫を継続していく。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地内に草花を育て、季節の移り変わり等を感じて頂いている		季節の変化に応じて外回りの空間が楽しく利用出来る様に工夫していく。

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

〔個の尊厳〕職員全員が黒子のケアをモットーにひとり、ひとりの尊厳を大切に日々取り組ませていただいています。利用者の皆様がいつも明るい笑顔で生活して頂くことを目標に、個別支援の充実を目指しています。近隣の方が気軽に出入りいただけるような雰囲気作りに努めています。